

日本の無償資金協力\*2で建設された水道会社の浄水施設から、水道配管地図の作成を通して無収水の削減に取り組みたいとJICAに要請があったことから高津さんの派遣につながりました。高津さんはGPSを片手に同僚と町を歩き、時には土に埋もれたメーターを発掘したり、破裂した水道配管の調査をしたりと根気強く活動していました。



企画調査員(ボランティア事業)\*3  
森田 瞳子(もりた・とうこ)

\*2 途上国に資金を贈与し、その国が経済社会開発のために必要な施設を整備したり、資機材を調達したりすることを支援する形態の資金協力。  
\*3 隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査して要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を行う。

+one information

ケニアのキャッシュレス事情

昨今よく耳にする“キャッシュレス化”という言葉。実はケニアでは、すでに多くの人がキャッシュレス決済を利用しています。私もケニアに赴任してから知ったのですが、一番有名なのが携帯電話のショートメッセージを使って送金や支払いなどのお金のやり取りができる「M-PESA」と呼ばれるサービスです。Mは“モバイル”を、PESAはスワヒリ語で“お金”を意味しています。スマートフォンだけでなくガラケーでも利用可能でとても便利なんです。

M-PESAは、ケニアにあるたいていの店で使うことができます。店以外にも使える場所は広がっていて、タクシーの支払いを運転手の携帯電話に直接送金して行うこともあるとか。ちなみに、私が所属していた水道会社も窓口での支払いがM-PESAのみとなり、当たり前のようにキャッシュレス決済が使われていることに驚きました。

現金の入金や出金は町のいたるところにあるM-PESAの代理店で行うことができ、銀行やATMがないような小さな町でもM-PESAの代理店は必ずあるといわれています。それだけ人々の生活にこのサービスが根づいているということなのですね。

ケニアではいまだに銀行口座を持っていない人も多くいるのですが、M-PESAは銀行口座を持っていなくても電話番号さえあれば手続きできるのが大きな特徴です。また、国民の携帯電話保持率も高く、こうしたケニアの社会的な背景とうまくマッチしてM-PESAの利用を後押ししたといえます。日本のキャッシュレス化はこの先どのように進んでいくのでしょうか。私も楽しみです。

(高津早由里)



イラスト●さかがわ成美



チームワークが  
大切!

GPSから水道メーターの位置情報を取得している高津さん(右)。同僚が持つリストと照らし合わせながら作業を進める。



パソコンの  
作業もばっちり

事務所に戻ってからは、取得したデータをパソコンに取り込み水道配管地図を作っていました。



時にはメーターが地面に埋まってしまっていることも。こういう場合は見つけるのが容易ではない。



JICA海外協力隊  
がゆく Vol. 22

ケニアの水道局で  
IT技術を用いて活動した  
隊員をご紹介します。

構成●坪根育美

in ケニア  
高津 早由里

たかつ・さゆり  
出身地:千葉県 職種:コンピューター技術  
任期:2017年10月~2019年10月



コンピューターを使って  
地域の水道配管地図を  
作りました

これまでにシステムエンジニアやITサポート業務の仕事を通して、IT技術を習得してきた。海外協力隊では、ケニアのカプサベットという町にある水道会社に所属して、GIS (Geographic Information System) を使った地域の水道配管地図の作成と、それを分析して無収水率を下げるための活動に携

わりました。GISとは地理情報システムのことで、この技術を使うとコンピューターで地図が作成でき、さらにその地図にさまざまな情報を追加することが可能です。このシステムを使用するのは初めてで、活動内容を知ったときは驚いたのですが「きっと私にできることがあるはずだ」と思い、挑戦することにしました。

地図を作成するために、まずは顧客情報の整理から始めました。そこで、水道会社の情報システムを担当しているスタッフ数人と一緒に、会計システムに入っている顧客データの精査作業を行いました。なかにはエクセルの操作もままならないスタッフもいたので一から教えることもありました。

赴任して1年が過ぎた頃から、精査した顧客情報をもとに、スタッフと調査に向きました。GPSを持ち歩き、水道メーターや水道配管の場所のデータを取得するのが目的です。事務所に戻ってからはデータをパソコンに取り込んで地図を作成していきます。メーター番号や設置年、顧客名などの情報も追加します。顧客情報にあった住所の場所がわからず探し回ることも多く、かなりの時間がかかりましたが、任期中にカプサベット地域の水道配管地図を完成させることができました。最初

はどこか他人事(ひとごと)のようだったスタッフが徐々に率先して地図作りに取り組みようになっていき、私の離任間近になって「もう一人で地図を作るよ」と言ってくれたときはとてもうれしかったです。日本では当然のように使われている地図の貴重さを含め、多くのことを体感しながら学んだ2年間でした。今後は海外はもちろん、新たな場所で挑戦したいと考えている人たちに私の体験談を伝えていきたいです。

\*1 水道配管からの漏水、盗水、水道メーター故障などにより料金を徴収できていない水の割合。